

めざす公園像を実現するため、再生方針を踏まえた事業の全体方針



● 独自の事業実施コンセプト 「REVIVE」

- 近年の社会環境は大きく変化しています。特に新型コロナウイルス感染症を契機に、人々の価値観やライフスタイルは多様化し、都市や公共空間に求められる役割も変わりました。
- 中でも公園は、単なる「余暇施設」にとどまらず、日常と切り離された「サードプレイス」としての“癒し”や“再生”的場、“地域共生”的場としての機能が強く求められています。
- 私たちは、この公園の再生事業の全体コンセプトを 「REVIVE（リバイブ）」と定義しました。

● 「REVIVE」に込めた思い

- 「REVIVE」とは、英語で「再び生きる」「蘇る」「活力を取り戻す」といった意味を持ちます。
- これは単なるリニューアルやハード整備ではなく、かつてこの場所にあった価値を、現代的な視点で読み替え、再解釈し、今の人々にとって意味あるかたちで蘇らせるという、文化的・心理的な深みを持つ再生戦略です。
- このコンセプトは、変化した社会のニーズに応えると同時に、地域固有の歴史や風景、記憶を未来につなぐ「持続可能な公共空間」の創出を目的としています。

● 「REVIVE」を具体化する5つの再生方針

- 本事業では、「REVIVE」の理念を以下の“5つの復活”により具現化することで、空間整備と運営管理の両面から、日光川公園全体を再生していきます。

1. 日光川の自然を復活

流域特性や水辺生態系の再生に取り組み、自然との共生・学びの場を創出します。
(例:ヨシの湿地帯、松並木の保全と活用)

2. サンビーチ日光川の賑わいを復活

かつての人々の記憶を継承しつつ、現代のニーズに対応したアウトドア・滞在型利用を導入します。
(例:RVパーク、ドッグラン、芝生広場)

3. 健康な心を復活

自然の中で心身を癒す体験や過ごし方を提供し、現代人のウェルビーイングを支援します。
(例:サルスペリの丘での静かな散策、癒しを意識した植栽・管理、マインドフルネスなプログラム)

4. 人と自然の関係性を復活

自然体験を通じて、人と自然とのつながりや環境への感受性を育む場を整えます。
(例:自然観察会、湿地保全への市民参加、エコガイドの配置)

5. 地域の活力を復活

地域住民や団体との協働による「開かれた公園運営」により、地域の誇りと発信力を高めます。
(例:地域マルシェ、市民団体によるプログラム共催)

業務実施体制



● 管理運営：癒しを提供するサービス姿勢

- 「REVIVE」というコンセプトは、日光川公園の持つ過去の価値（自然、賑わい、地域の記憶）と、これから求められる価値（ウェルビーイング、多様性、自然共生）をつなぎなおす再生のビジョンです。「人・自然・地域」がともに蘇ることで、社会課題に応え、多様な価値観を受け入れ、心の安らぎを提供する「公園の再定義」に他なりません。
- 私たちはこの日光川公園を、「わざわざ行きたくなる」特別な場所として、次の時代につなぐことを目指します。

管理運営方針

ホスピタリティのある管理スタッフ体制

- 丁寧な案内・接遇、静かな環境の維持 -

癒しを意識した清掃・維持管理

- 音・匂い・視覚に配慮した心地よい空間 -

参加型の癒しプログラムの提供

- 花や香りのワークショップ、ヨガ、自然観察会 -

「静」と「動」の利用ゾーンのバランス管理

- ドッグラン等との調和を図るゾーニングと利用時間設計 -

■ 募集要項に記載のめざす公園像「ウェルビーイングの高まりを実感できる、わざわざ行きたくなる公園」に資する提案

● 再評価される公園の役割・公園がもたらすウェルビーイングの効果

- 公園は今、単なる「憩いの場」から、ウェルビーイング(心身の充足)を高める空間として再評価されています。都市生活のストレスや孤立感が増す中、公園が果たす役割はますます重要になっています。
- 多世代が集うことで、孤立感の軽減や地域コミュニティの活性化につながる公園は、ただの「場所」ではなく、「人の心と体を整える装置」になりつつあります。
- 日光川公園は、広大な敷地の造成から始まりランドスケープの考え方により「景色」「風景」「景観」までをデザインし、来園者に寛ぎや癒しを実感できる公園を目指して運営します。



身体的健康の促進

- ウォーキングやジョギング、ヨガなどの運動機会を提供
- 自然の中での活動が血圧やストレスホルモンを低下させる「ネイチャーフィックス」効果



精神的・感情的な安定

- 緑に囲まれることで、リラックス効果が得られ、うつ症状の軽減にも効果あり
- 鳥のさえずりや風の音など、五感を刺激することでマインドフルネスを促進



社会的つながりの創出

- 地域イベントやフェスティバル、ピクニックなどを通じて、人との交流を創出



■ 公園全体におけるイベントなどの提案

● 日光川公園を「ふれあい」と「非日常空間」が交差する中部地区最大級のリゾートへ再生

- 私たちは、心地よい音楽情熱的なダンス、五感を刺激する演出によって、日光川公園を人々の心に残る体験型リゾートとして創出します。【展開場所：大芝生広場ステージ】

屋外シネマイベント

- 大芝生広場で自由に座りながら、飲食しながら屋外で映画を楽しむイベントです。
- 鶴舞公園で開催している屋外シネマ上映を、日光川公園でも計画します。一般向け・こども向けの季節感のあるコンテンツで来園者に楽しんで頂けるように年間を通じて開催します。



防災イベント・防災キャンプ

- 防災を考える機会を小学生へ指導者・大学生により体験するキャンプです。(出展：中日サバイバルキャンプ 2017年鞍ヶ池公園)



キッチンカー・雑貨ショップによるマルシェイベント

- 様々な人気雑貨などを50店以上のショップが参加して公園利用への来園意欲を促進します。
- キッチンカーも様々なカテゴリーの飲食を提供し公園での賑わいを創出します。



健康フェスティバル

- 芝生広場でヨガ・健康体操他の年齢を問わない健康維持のためのフェスを開催します。
- 小さな子供とのママさんヨガも人気です。



子ども向け「カブトムシに触れる体験イベント」「SDGsものづくり×生物イベント」

- 大型テントの中で放し飼いのカブトムシを観察する体験イベントやSDGsを遊びながら体験する子ども向け企画を障がい者を支援する福祉事業者と連携し開催します。



■ ドッグラン、キャンプフィールド、BBQ、cafeその他任意の提案施設について、賑わいの創出や利用者サービス及び利用者満足度の向上に資する提案

[1] 「ドッグパーク」の管理運営について

● 犬の安全・飼い主の満足向上策（アニマルウェルフェア 動物福祉についての対応）

◆ 実施体制

- ・動物管理アドバイザー（獣医師・動物飼育指導者）が、管理運営を行うとともに、専任スタッフへの研修・指導も行います。犬の習性に詳しいスタッフを配置するほか、緊急時対応マニュアルの作成と訓練を行い、犬と飼い主の安全性を確保します。



◆ 施設の設計と安全対策

- ・施設設計面においては、①フェンスやゲートで完全に囲う、②犬種・サイズ別ゾーン分け（衝突防止）、③給水設備・排泄エリアの設置、④滑りにくい地面素材や死角のない設計により、安全対策を施します。

◆ 利用規約とルールの整備、利用者同意書の取得

- ・安全に利用していただけるドッグランとするため、ノーリードでの利用に伴うトラブル防止ルール（攻撃性のある犬の制限など）を整備します。また、事故発生時における責任明確化のため、利用にあたっては「利用者同意書」を提出いただきます。

◆ 有料サービスの展開

- ・利用料金は多様な設定（使用料・年会員など）とするほか、有料サービスとして、「歯磨き・爪切り・ペット用品展示販売」「しつけ教室」「犬の運動会（参加者募集）」「プロカメラマンによる愛犬の写真撮影」を展開します。週末等のイベントとしての実施が主となります。ECO 動物専門学校（名古屋市）の協力も得て、将来ペット関係の仕事を目指している学生の実習としての機会を設けることも想定しています。

● 愛好家の交流の場と利用者サービス

- ・ペットブームの中、ドッグ愛好家の行動力・コミュニケーション力は注目すべき点が多く、ドッグイベントには出店・来園とも多数参加し、賑わいがあります。年間を通して利用できるドッグ施設の整備は県内外からも目的地（経由地）として選ばれる可能性も高いと考えます。関東地区のドッグパークでは、首都圏からの来園者が多く、入園料等が有料化されて運営されています。
- ・日光川公園においてもドッグマルシェ（50～100 店舗出店）やアグリティ（競技会）、しつけ教室、ドッグ用品展示会、ドッグケア（爪切り・歯磨き）等、関連事業者と連携し、利用者サービスを提供します。



◆ 「アニマルセラピー」の取り組み

- ・当グループ構成企業の福祉事業者「tomoni・plus」と連携し、専門家の指導のもと、医療介護施設・教育現場でも活用されている「アニマルセラピー」の取り組みも計画しています。
- ・自宅でペットを飼っていないファミリー層へ向けて、子どもたちが動物と触れ合えるイベント（犬とお散歩体験会）も計画します。

◆ コミュニティーでの利用、はじめてでも利用しやすいドッグラン

- ・友人同士や同犬種のコミュニティーで予約できるドッグランを4ヶ所設置し、水遊びができる犬用プール（予約制）も設置します。
- ・ドッグランに慣れていない犬も利用しやすいように「ビギナーサイト」も整備します。

◆ ドッグランの「ナイター営業」（夏季）

- ・夏場の時期のドッグパークは愛好家の要望が多いナイター営業を計画します。日中、暑さで散歩ができない夏場もナイター営業により犬と飼主がストレスなく利用できます。（ナイター営業：16時～20時）



◆ 多彩なドッグイベントの企画・開催

- ・ワンちゃんふれあい広場や珍犬種の展示、ドッグパフォーマンスショー、犬のお手入れ教室（グルーミング・爪切り）、犬の幼稚園、しつけ教室、犬の交流会や運動会、飼育相談会などの多彩なイベントを企画し、利用者サービスの向上に取組みます。

[2] 「RVパーク」の管理運営について

● 車中泊文化の発展が生む未来の観光ビジネス

- ・車中泊文化の浸透は、観光業において新たな成長の鍵を握っています。日光川公園周辺には、観光拠点が多数立地しており、特に、車中泊専用の施設を増やし、旅行者に快適な滞在場所を提供することで、長期的な観光需要の創出が期待できます。
- ・RVパーク事業は、地域の観光業者や自治体にとっても収益性が高く、地域の魅力を発信する絶好の手段です。さらに、RVパークは地元産品の販売や地元イベントとの連携など、地域経済全体を活性化する可能性を秘めており、本施設の立地特性や事業の目的に合致する事業と考えています。

● RVパークの管理運営について（日光川公園の自然環境を踏まえて）

- ・日光川付近は年間通じて風の影響を受けやすく、強風時はテントでのキャンプが制限されるため、宿泊エリアは風の影響を極力抑えながら、近年人気が高い「RVキャンプ場」として車中泊用サイトを整備します。非日常感のリゾート滞在空間の園内のRVキャンプサイト・園外のライトRVキャンプサイトの合計58ヶ所を整備し、利用者が自由に選択できる環境を整えます。
- ・中央の芝生エリアでは、フリースペースとしての利用や日光川サンビーチを回想させるハワイアンイベント、パークシネマなどを企画し、アーバンキャンピングの昼・夜の楽しみ方を提案します。道の駅や高速道路PAで車中泊利用が増加する中、既存の園外駐車場の利用は、一般・イベント来園者との交差により支障が発生しない時期・時間を供用開始後、検証しながら段階的に運用します。



[3] BBQ・cafe 施設の運営について（SDGsの持続可能な社会に向けての取組み）

● 季節ごとの利用時間設定による効率的なBBQ施設運営

- ・集客力が期待できるBBQ施設は、一般利用客・RVパークの車中泊利用者へ向けてリゾート空間でファミリー、友人、同僚、地域団体客なども楽しめる施設運営を行います。手ぶらでBBQでも、食材持込でも可能とし、利用者の自由度を広げて運営します。ゴミなどの廃棄は施設で行います。
- ・利用時間は季節により変更しますが、昼間と夕方からの2部制として、多くの方にご利用いただけるように運営に柔軟性を持たせ、夏場の利用もナイト営業で稼働率向上を図ります。冬場の利用率が低下する時期は、営業時間の短縮等も含め、効率的なBBQ施設運営を実施します。



■ 事業の全体方針、運営計画を踏まえた整備の考え方について / 施設の魅力増進、利用促進、利用者サービス向上等に資する公園施設の整備の提案

[1] 事業方針「REVIVE（再生）」を具現化するための整備方針

「Bon Voyage（ポンボヤージュ）」旅立ちの風景、再生の景観 - 港から世界へ、川から街へ、心から自然へ -

日光川に沿った線的構成

- 公園の細長い形状と日光川の流れを活かし、川とパラレルなランドスケープ軸を設け、視線が抜ける雄大な構成を計画。
- 訪れる人が「どこかへ向かっている」という旅の気分を自然に感じられる景観を創出します。

港湾の骨太な構造物 × 花と緑のやさしさ

- 港にふさわしい構造的で安定感のある建築・土木的な形態を意匠に取り入れます。
- 一方で、そこに対比的に配置される四季の草花、湿地のヨシ、芝生、常緑樹などの緑が柔らかく包み込むように存在し、「剛」と「柔」、「産業」と「自然」、「人工」と「生命」が共存する独自の景観美を形づくります。

かつての南国リゾートの記憶を継承

- 旧サンビーチ日光川で整備されたヤシや常緑樹の森を積極的に活かし、かつてのリゾートの風景を現代的に再編集。
- 訪れた人々が「懐かしさ」と「新しさ」の両方を感じられる記憶の継承=文化のREVIVEを実現します。



[2] ゾーニング計画

- 計画地の既存施設の状況や周辺の土地利用、コンセプトの具現化に向けた関係性から、特徴的な9つのゾーンを設定します。南東から北西に向い徐々に自然度の高いゾーン配置とします。

ゾーン名	機能	コンセプト方針
①Welcome Gate Zone	駐車場・駐輪場	公園への玄関口。旅の始まりを告げる導入空間
②Journey Hub Zone	エントランス・休憩	人・情報・動線が交わる旅の交差点
③River Heaven Zone	砂浜RV・ニュースポーツ	水辺にとどまる、非日常のリゾート滞在空間
④Easy Camp Zone	お手軽RVパーク	都市近接型のライトキャンプ空間
⑤River Glade Zone	BBQゾーン	川辺で心をほどく、開放的なBBQサイト
⑥Dog Voyage Zone	ドッグラン	愛犬と共に旅を楽しむやすらぎの場
⑦Green Fest Zone	芝生イベント	市民が主役のにぎわいの核
⑧Flower Vista Zone	花展望	四季を彩る風景のクライマックス
⑨Wetland Rebirth Zone	ヨシ原・湿地再生 ・環境学習	自然の再生と生態系保全を体現するゾーン。ラムサール湿地に隣接する拠点として、未来への環境価値を創出



管理棟内フリースペース(イメージ)



DOGパーク(イメージ)



プランコ山(イメージ)



動線図

[3] 動線計画

● 既存地形を生かした

3重のループ動線で公園利用を活性化

- 「サンビーチ日光川」は、中央にプールを配置していました。そのため、周囲が高く中央部が低い空間構成となっています。
- この地形に沢山の樹木が生育しています。この既存地形を活かし、プールがあつた低地部、プール周囲の高台部、さらにその外周にある管理動線部に3つのループとなるユニバーサルな動線を配置します。

動線名	主な役割	コンセプトとの関係性
①Access Line	駐車場・駐輪場 →エントランスへの導入動線	「旅の始まり」を象徴するプロムナード 都市から自然へ切り替わる“ゲート体験”を演出
②Loop of Life	芝生広場・ドッグラン ・花の丘を巡る回遊動線	公園のにぎわいと四季を感じる「暮らしの風景」をめぐるルート。人・自然・ペットの交流を誘発
③River View Trail	川辺の風景を楽しむ ジョギング・散策・管理動線	「心の再生」を体感できる静かな眺望ルート 旅の途中で“深呼吸”するような癒しを演出
④Camp Access Road	RVパーク利用者など 一般来園者の車両通行動線	「日常から非日常への橋渡し」 利便性と安全性を両立した滞在者専用の動線
⑤Service Loop	管理・保守・イベント対応など の動線（外周部）	公園機能を支える“見えない動脈” 運営・イベントを下支え、日常と非日常をつなぐ基盤